

4. 第4回シンポジウム提言

私達は、これまで身近な河川・濠・水路等の環境悪化を憂慮し、東京の各地域で保全再生活動に取り組んでまいりました。しかし近年、水辺環境の再生には江戸から東京へと受け継いできた水の大動脈である玉川上水・分水網等の流れを復活することが不可欠であるとの思いを強く抱くようになりました。このため、2016年に多くの大学研究者、関連市民団体と連携し「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会」を設立し、シンポジウムの開催や関係機関への提言をおこなってまいりました。

幸いにも2019年12月に発表された東京都「未来の東京」戦略ビジョンでは『「水の都」として栄え、玉川上水の清流や豊富な緑が保全された江戸時代の東京』として再評価されるに至りました。

この方針をより確かなものとし、玉川上水を軸とした多摩川からの水の流れを復活させるため、次の事項を提言いたします。

1. 玉川上水の試験的通水による外濠・日本橋川等の水質浄化の促進

東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、多摩川から玉川上水へ導水し、再開発が進む外濠・日本橋川、渋谷川等の水質浄化と水辺環境整備を促進すべきと考えます。

玉川上水からの導水には、水路の環境に与える影響、維持管理の方策等多くの課題が予見されます。このため、徐々に水を流しながらその影響を研究者、市民と協働しつつ計測、評価する「見直し」による導水が適切であることを提言します。

2. 玉川上水域の水循環再生計画の策定と緊急時防災水利等の確保

羽村から隅田川に至る玉川上水系(玉川上水・外濠・日本橋川等)は東京の水循環の基軸の一つです。この流れを基本に、分水網・中小河川を含む区域を玉川上水域として一体的にとらえた「(仮称)玉川上水域水循環再生計画」の策定を提言します。

さらに、この水循環再生計画にもとづき、自然に流下する玉川上水の水を緊急時の水利としても活用し、災害に対するレジリエンス(回復力)の強化を促したいと考えます。

3. 玉川上水域の水循環再生から世界に誇れる水と緑の回廊づくりへ

緊急時の防災水利等の確保に加え、玉川上水域の水利条件に応じた水路環境整備や分水と連携した池泉、湧水、中小河川の環境改善を促すべきと考えます。このため、玉川上水域の水路や関連遺構等の保全再生等が重要であることを提言します。

4. 玉川上水域全体の保全再生を促進するための協議会等の体制づくり

「(仮称)玉川上水域水循環再生計画」策定のための関連自治体、研究者等による協議会や市民との協働による玉川上水域の水流・水辺環境の維持管理や利活用の体制づくりを提言します。

以上

令和2年1月18日

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

第4回シンポジウム 参加者一同